



<http://okinawa-branch.com/>

No. 54

2018年 5月 7日

【発行】平和フォーラム沖縄事務所
tel/fax:0980-43-0740
mail:peaceforum.okinawa@gmail.com

「奇跡の 1 週間」闘いの報告 その 1

ゲート前の座り込みの闘いは、2014 年 7 月から今日 5 月 5 日まで 1390 日継続していますが、今回の 6 日間の集中行動は最も激しく闘われたと思います。この「奇跡の 6 日間」を振り返って報告することにします。

第 1 日目(4 月 23 日)。辺野古ゲート前、連続 6 日間 500 人集中行動実行委員会が主催して、今日から「奇跡の 1 週間」が始まるので、私もいつもより早く 7 時 15 分頃にはゲート前に到着して、果たして 500 人は来るのかなど不安と期待をもって座り込みに参加しました。8 時頃には、仲間たちが来るわ来るわ、あつという間に 400 人から 500 人が座り込みました。いつものブロックの板の上はあふれて、自然と国道 329 号線進行方向南側の車線は完全にふさぐということになりました。

この日の機動隊は午前 9 時頃までは、いつもの 40 人～50 人態勢でした。ダンプが到着する頃には仲間はさらに増え、このダンプの前に 100 人くらいが座り込むという状況になりましたが、機動隊はまだ動かない。10 時頃には 329 号線は一時上下線とも完全に通行不能となりました。こうした状況の中、機動隊は急遽 300 人くらいまで増員して、暴力的な強制排除をし、団体の中に運行しますが、仲間たちは団体の規制をすり抜けて座り込みということを繰り返しました。私自身も 5 回もすり抜けて座り込むということで激しく抵抗をしました。暴力的な排除があちこちで行われ、「暴力だ」、「人権侵害だ」、「表現の自由だ」と抗議の声が飛び交いました。機動隊とのもみ合いの最前線では、女性が肩と肋骨を骨折するなど、激しい排除が行われていました。それでも仲間たちは引きさがることも、ひるむこともなく、ダンプの搬入を午後 1 時 30 分頃まで阻止しました。

第 2 日目(4 月 24 日)。この日の機動隊、民間警備会社の職員は顔が引きつって、非常に緊張したようでした。ゲート前のいつものワンボックスの警察車両は大型の、通称「カマボコ」をゲート入口に配置し、その前に 50 人の機動隊が仲間を制圧しました。仲間を拘束する場所には、カマボコがシュワブゲート正門まで並び、今日こそは全員を拘束する準備が完了しています。この日、警察権力は座り込み中最大の約 400 人を運行し、拘束しました。しかも、強烈な太陽の下に 3 時間を超えるという「人権侵害」が行われました。トイレに行くのにも、出るときの人数が団体に帰ってこない限り、その後の人はそこから出さないなど、県民を命に関わるような状態に置く権力側の対応に怒りが爆発しそうでした。このような状況であったために、救護班の手当を受けた人は 30～40 人にものぼり、さらに、不当にも 2 人の逮捕者がでました。山城議長は参加者の体調を考えて、抗議行動を中断するから全員を解放するようにと、指揮とっている隊長に申し入れましたが、無視されました。

3 日目(4 月 25 日)。今日も工事を止めるぞという固い決意をもった仲間が 800 人集まりました。山城議長は昨日の経験から、300 人でも 400 人でも拘束する警察側の動きを考えて、機動隊とカマボコ数台を配置させないために、参加した仲間の半数をこの団体に座り込ませるという戦術をとりました。国道 329 号線片側車線を埋め尽くすことになり、この我々の行動にあわてた警察側は、なんと我々が占拠している前にカマボコ 8 台を停車させ、機動隊 300 人を並べて、我々をひとりも強制排除することなく、400 人近くの仲間を拘束しました。この日は「辺野古・大浦湾をカヌーと船で埋め尽くそう」4・25 海上座り込みが行われました。午

後1時からは辺野古の浜で300人による連帯集会が開催され、工事は必ず止められる、平和への思いを今こそ行動につなげようと海上組も気勢を上げました。

